

米大統領選**終盤での接戦を一変させ得る今夜の第 1 回テレビ討論会**

米大統領選本選まであと 43 日。本日 9 月 26 日、民主党候補のヒラリー・クリントン前国務長官と共和党候補の不動産王ドナルド・トランプ氏による第 1 回テレビ討論会が行われる。両候補の初の直接対決となる今夜の討論会への有権者の関心は非常に高く、今回の視聴者数は過去最多の 1 億人超が予想されている。終盤の選挙戦はクリントン氏が支持率でトランプ氏を僅差でリードする接戦となっているが、注目を集める今夜の討論会は戦況を一変させる可能性を秘めている。今回は、この討論会の注目点等をまとめてみた。

1. 過去最多の 1 億人超が視聴の見通し、スーパーボウル並みの人気

大統領選挙の投票日 11 月 8 日まであと 43 日、支持率でも獲得選挙人数予想でも接戦となっている戦況を一変させる可能性を持つ第 1 回大統領候補討論会が、本日 9 月 26 日夜にニューヨーク市郊外ヘンプステッドのホフストラ大学で行われる。

民主党候補のヒラリー・クリントン前国務長官と共和党候補の不動産王ドナルド・トランプ氏の初の直接対決となる同討論会への有権者の関心は非常に高い。米メディアは、今回の討論会の視聴者数が過去最多の 1 億人超、今年の NFL（ナショナル・フットボールリーグ）の王座決定戦スーパーボウルの視聴者数 1.1 億人に迫る人気イベントになると予想している。

2. 司会者が候補の虚偽発言を訂正すべきかが議論に

討論会ではモデレーターと呼ばれる司会者が重要な役割を果たす。司会者は CPD が選ぶが、候補者及び選挙の争点に精通し、テレビニュースの生放送において十分な経験を有し、候補者及び候補者の考えに焦点を充てるといふ討論会の目的を理解している人物という条件がある。司会者は、質問事項を CPD や候補者に相談することなく決定する権利がある一方、質問を投げかけるだけでなく各候補に公平な回答の機会を与えることが求められる。

司会者に関して今回の注目は、候補者が事実と反する発言を行った場合に司会者が指摘すべきかどうかの議論が起きていることである。9 月 7 日に開催された最高司令官フォーラムでは、司会者のニュースキャスターであるマット・ラウアー氏がトランプ氏の「自分はイラク戦争に反対し続けてきた」という虚偽の発言を訂正せず、大きな批判を浴びた。一方で司会者が訂正すべきではないとの意見も多く、第 3 回討論会の司会者のクリス・ワレス氏も発言内容の事実関係の確認は対立候補がすべきであり、候補の誤った発言があっても自分は訂正しないと述べている。ちなみに最近のトランプ氏は、司会者は不公平、司会者なしでクリントン氏と討論したいと述べるなど、自らの発言に司会者が異議を唱えることに抵抗を示

している。

3. 今夜は経済と安全保障に関する議論

先週、26日の第1回討論会の司会者であるレスター・ホルト氏より、討論会におけるテーマが発表された。「米国の方向性（"America's Direction"）」「繁栄の実現（"Achieving Prosperity"）」「米国の安全確保（"Securing America"）」という大まかなものだが、主に経済と安全保障に関する議論が行われるとみられる。

この一週間、ニューヨークにおけるアフガニスタン系米国人による爆弾事件、ミネソタ州におけるソマリア系米国人による刺傷事件、ノース・カリフォルニア州における警官による黒人射殺に対する抗議デモ等が大きく取り上げられており、討論において候補者の考えと対策を引き出すことになるだろう。

4. 接戦で迎える今夜の討論会、両候補にチャンスとリスク

終盤の選挙戦は支持率と州別の獲得選挙人数の予想どちらでみても接戦である。最新の主要世論調査の平均支持率ではクリントン氏が46%弱、トランプ氏が44%弱で、その差は2ポイント強と誤差の範囲内にとどまっている。政治専門サイト等の獲得選挙人数予想も最近ではトランプ氏が追い上げ、クリントン氏のリードは僅かになっているし、特に激戦州での両候補の差は縮まっている。それだけに、1億人超が視聴する見通しである今夜の討論会は、両候補が拮抗している終盤の情勢を一変させる可能性を秘めている。両候補とも一つの失言やちょっとした態度や仕草が命取りになる危険性もある。

クリントン氏にとっては、今夜の討論会は再びトランプ氏を引き離す大きなチャンスと逆にトランプ氏に逆転されかねないリスクが並存している。クリントン氏の方がトランプ氏よりも圧倒的な知識と政治の経験を持つということでは、討論はクリントン氏に有利である。一方で、クリントン氏のリスクの一つは、トランプ氏がテレビでのイメージ発信に長けており、答えにくい質問を絶妙に交わす才能を併せ持っていることだろう。トランプ氏が今夜の討論会において、大統領らしく振舞おうとするか、クリントン氏の過去の判断や政治家としての能力を激しい言葉で徹底的に攻撃してくるのか、どちらの戦術を選ぶのか予想がつかないこともクリントン氏にはリスクになる。また、討論の経験豊富なクリントン氏といっても、他党の候補との討論、トランプ氏のように激しい言葉を浴びせてくる候補との討論の経験はないという不安はあろう。

また、クリントン氏には、討論会での発言内容がトランプ氏より優れていても、有権者からの支持の拡大で勝てるとは限らないという懸念もあると思われる。候補者が有権者に与える印象が、投票行動を左右する上で何よりも重要だからである。しかも有権者が、政治の実績が豊富なクリントン氏と実績のないトランプ氏では、異なる基準で評価する可能性もある。とりわけトランプ氏が討論で大統領らしさをアピールして有権者に評価されるようなら、これまでの非常に低い同氏の好感度の改善につながり、支持率でクリントン氏を追い抜く可能性がある。

トランプ氏にとっての問題は、今夜の討論会が共和党の予備選で数多く経験した討論会とは異なる展開や雰囲気になる可能性が高いことだろう。共和党の討論会は多数の候補者で行われ、トランプ氏は沈黙して目立たない時間が長かったが、同氏が自分にとって有利と思われるタイミングで議論に割って入ることで共和党支持者に強くアピールすることが可能だった。だが今夜の討論会是一对一の討論であり、トランプ氏が得意にしてきたこの戦術は使いにくい。今夜の討論会が 90 分連続、共和党の討論会のようにコマーシャルの休憩が入らないという違いもある。また、共和党の討論会は会場の聴衆の拍手、歓声、ブーイングが許されたが、今夜の会場の聴衆は討論中の拍手や発声を禁じられる。共和党の討論会では、トランプ氏は聴衆の反応を巧みに利用していたが、今夜は司会者と両候補の発言以外は聞こえない。視聴者にとっては、今夜のトランプ氏の討論の様子は共和党の討論会のそれとは相当異なる印象になると思われる。トランプ氏がこうした違いを乗り越えて、有権者に好印象を植え付けられれば、最近の選挙戦での追い上げに続き、ついにクリントン氏を追い抜く可能性が出てくる。逆に躓くようなら、再びクリントン氏との差は開いていくだろう。

両陣営とも前日 25 日は遊説等の日程を組まず、討論会の準備に専念した。一方で 25 日午前の政治関連のテレビ番組では両陣営の幹部による前哨戦が展開され、両候補の初の直接対決へ向けたムードは明らかに高まっている。世論調査によれば、今夜の討論会が支持候補を決める上で非常に重要と思う有権者は全体の 3 分の 1、過去の大統領選並みにとどまるという結果は出ている。もっとも、討論会への関心が低い有権者の多くは、支持候補を決定済みである。今後の選挙戦のカギを握るのは態度未決の有権者であり、その多くは今夜の討論会を非常に重要と思っている可能性が高い。そうすると、やはり今夜の討論会は両候補が拮抗する現在の情勢に変化をもたらす可能性があると考えられる。討論会を注意深く見て、その結果と有権者の反応を次回報告で伝えることにしたい。

5. (参考) 大統領候補討論会のしくみ

ここで大統領候補討論会のしくみを整理しておこう。同討論会は大統領候補討論会委員会 (Commission on Presidential Debates; “CPD”) の主催で行われ、CPD が実施方法の詳細を決めている。CPD は 1987 年に創設された民間の独立した非営利団体で、政府や政党からの献金を受けておらず、1988 年以降の全ての大統領選の討論会を主催してきた。米大統領選では 1960 年のケネディー対ニクソンのテレビ討論が有名だが、討論会の実施は必ずしも義務ではなかった。1964 年、1968 年、1972 年には討論会そのものが行われず、1976 年、1980 年、1984 年も直前まで実施されるかどうか分からなかった。その後、1984 年のジョージタウン大学戦略国際問題研究所やハーバード大学インスティテュート・オブ・ポリティクスの調査で討論を大統領選出プロセスの一部に加えるべきとの提案がなされ、CPD が誕生した経緯がある。

今回の大統領選では、大統領候補者間の討論会は 3 回、副大統領候補者間の討論会は 1 回行われる。候補者の参加条件は、大統領に当選するのに十分な数の州の投票用紙に名前が掲載されていることや全国レベルの世論調査において 15% 以上の支持率を獲得していること

などである。今回の大統領選で参加条件を満たしているのは民主党のクリントン氏と共和党のトランプ氏のみであり、リパタリアン党のゲーリー・ジョンソン候補と緑の党のジル・スタイン候補は支持率が低く参加資格は得られなかった。

全ての討論会は東部時間の午後 9 時に始まり、90 分間、コマーシャル中断なしで行われる。1 回目と 3 回目の大統領候補討論会は各 15 分ずつの 6 回のセグメントに区切られ、冒頭に司会が質問を提示した後、各候補者には 2 分間の回答時間が与えられ、その後は候補者間の自由討論となる。2 回目の討論は質問の半分を一般有権者が行うタウンホール形式で行われ、残り半分の質問はソーシャル・メディア等での関心に基づき、司会者が行う。会場は事前に立候補を募り、候補会場の中から開催の一年前に決定されるが、過去のほとんどは大学のキャンパスが選ばれてきたで実施されており、今回もニューヨーク州ホフストラ大学、ミズーリ州ワシントン大学、ネバダ州ラスベガス大学等が会場に選ばれた。

討論会スケジュール

日程	内容	会場	モデレーター
9 月 26 日 (月)	大統領候補討論 (第 1 回)	ニューヨーク州 ホフストラ大学	Lester Holt (NBC)
10 月 4 日 (火)	副大統領候補討論	バージニア州 ロングウッド大学	Elaine Quijano (CBS)
10 月 9 日 (日)	大統領候補討論 (第 2 回)	ミズーリ州 ワシントン大学	Martha Raddatz (ABC) Anderson Cooper (CNN)
10 月 19 日 (水)	大統領候補討論 (第 3 回)	ネバダ州 ラスベガス大学	Chris Wallace (Fox)

出所：Commission on Presidential Debates

以上／井上・今村

本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、丸紅米国会社ワシントン事務所（以下、当事務所）はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。

本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するもので、当事務所は何らの責任を負うものではありません。

本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。

本資料に掲載している個々の文章、写真、イラストなど(以下「情報」といいます)は、当事務所の著作物であり、日本の著作権法及びベルヌ条約などの国際条約により、著作権の保護を受けています。個人の私的使用および引用など、著作権法により認められている場合を除き、本資料に掲載している情報を、著作権者に無断で、複製、頒布、改変、翻訳、翻案、公衆送信、送信可能化などすることは著作権法違反となります。